opusdei.org

40. イエスの復活を どのように説明すれ ばよいか?

使徒たちが今まで想像したこともないことが起こり、困難と嘲笑に晒されて当然と思えたにもかかわらず、証言しないわけにはいかなかったのです。

2016/09/28

キリストの復活は歴史的に確認され た本当の出来事です。使徒たちは見 たこと、聞いたことについて証言し ています。西暦 5 7年ごろ、聖パウロはコリントへの書簡の中で次のように書いています。「私がまず最も大事なこととしてあなた方に伝えたのは、私も受け継いだものです。それはキリストが、聖書に書いてあったしてケファに現われ、次いで、十二人に現われたということです」(1 コリント15, 3-5)。

起こったことの真実を、現在、可能な限り客観的に探ろうとすれば、次の疑問が出てくるでしょう。イエから苦しないう言明はどことを扱ったという対したとを操作した結果なのか。もしくは弟子たちを唖然とさせたように、今も驚くべきまた予想も出かない事実なのか。

これらの疑問点に対する合理的な答えを探しだすには、死後の世界に関してそれらの人々が何を考えていた

のかを調べ、復活の物語が人々の考え方に合っていたかどうかを評価しなければなりません。

まず、ギリシャ人の世界では死後の 世界に関する言及があるとはいえ、 それは特異なものです。ホメロスの 詩以降繰り返し語られたモチーフで ある、「ハーデス」とは、死のすみ かであり、生きる人々の住居のあい まいな記憶のごとき陰の世界です。 しかしホメロスはハーデスからの帰 還が実際に可能であるとは想像した こともありませんでした。プラトン は異なった視点から生まれ変わりに ついて思索しましたが、ひとたび死 んだ肉体が再生するということにつ いては考えませんでした。つまり、 死後の世界についてはしばしば語ら れましたが、ある人が現世の肉体に 戻るという復活の考え方には一度も 思いつくことはなかったのです。

ユダヤ教ではこれと一部は異なって いるが一部は共通の考え方がありま した。旧約聖書や古代のユダヤ教の 経典が語る「シェオール」はホメロ スの「ハーデス」と大きく異なった ものではありません。その世界に於 いて人は眠りについていました。し かし、ギリシャ人の考え方との違い は、そこには希望に向けて開けられ た門があったという点です。主は唯 一の神で、それは生きている人と同 様に死者に対しても、「シェオー ル」と同様に天上の世界でも、力を 持っていました。死に対して勝利す ることは可能です。ユダヤの伝統で は、しかしながらある種の復活を信 じていました、少なくとも一部の 人々は。また、メシアの到来に対す る待望がありましたが、それらの出 来事はお互いに関係がありませんで した。イエスと同時代のどのユダヤ 人にとっても、最初は、非常に異 なった環境の下で動く二つの神学的 な疑問が問題となりました。メシア

が主の敵たちを打ち負かし、ユダヤ の神殿崇拝を再度全盛にして純粋に し、そして主が世界を支配すること を信じていましたが、死後に復活す るということは考えてもいませんで した。それは敬虔で教育を受けたユ ダヤ人の想像の常識を超えるもので した。

イエスがメシアであることを示す証 拠とするために、イエスの遺体を奪 い去り、その復活をでっち上げて言 いふらしたという話は考えられませ ん。使徒言行録によると、聖霊降臨 の日、ペトロは断言しました。「神は このイエスを死の苦しみから解放し て復活させられました |。そしてこう 結んでいます。「だから、イスラエル の全家は、はっきり知らなくてはな りません。あなた方が十字架にかけ て殺したイエスを、神は主とし、ま たメシアとなさったのです|(使徒言 行録2.36)。

使徒たちが今まで想像したこともないことが起こり、困難と嘲笑に晒されて当然と思えたにもかかわらず、 証言しないわけにはいかなかったのです。

参考書: N. Tom WRIGHT, «Jesus' Resurrection and Christian Origins»: Gregorianum 83,4 (2002) 615-635; Francisco VARO, Rabí Jesús de Nazaret (B.A.C., Madrid, 2005) 202-204.

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/iesushitsumon-40/ (2025/12/10)